

子育て世代包括支援センターとの連携による大学発アートを取り入れた予防的教育

正保正恵 渋谷清 古山典子 上山瑠津子 山内加奈子 田中直美 渡邊真帆 弘田陽介

I. 本研究の目的

本研究の目的は、市内子育て世代包括支援センターと連携しながら妊娠期・子育て期の親に対してアート（音楽・美術・製作・メンタルヘルス・ボディワークなどのアート）を通じた学びをプログラム化して実践し、間接的なアートと直接的な言葉による講座を重ねることで、個人や社会にもたらす変化を観察することである。

II. 具体的講座内容（詳細は学術の日にてポスター発表を行い 2024 年度紀要に投稿予定）

【1】音でのやりとりを楽しもう ―音での対話― 古山典子

（1）音を使ったゲームを楽しむ、（2）音の響きを可視化する、（3）自分の好きな音探し―自分と音との対話、（4）音を介した他者とのコミュニケーション

【2】対話で新たな考えを得ることを楽しもう 田中直美

（1）共に生きる体験としての哲学対話 /（2）問いあうことと安心・安全な場 /（3）「不思議さ」を携えて

【3】体が落ち着くボディワーク ―安心を育む身体技法― 弘田陽介

（1）妊娠・出産をめぐる状況 /（2）安心を育む身体技法

【4】懐かしの絵具遊びを味わう 渋谷清

（1）「創造性＝つくり出す力」と「遊び」/（2）「心の解放」としての絵具あそび

【5】イラっとするときの対処法 山内加奈子

（1）妊娠とストレス/（2）怒りの感情

【6】心が落ち着く背守り刺繍 正保正恵

（1）ヒトとモノ、ヒトとヒトとの関係から、〈ヒトとモノ〉と〈ヒトとヒト〉との関係の見える化 /（2）現代にも通用する、生まれてくる子どものための背守り刺繍

【7】赤ちゃんを迎える環境づくりのヒント 渡邊真帆

（1）赤ちゃんにとっての身近な環境 /（2）本実践の目的と講座の概要

【8】赤ちゃんの発達って面白い！ 上山瑠津子

（1）乳幼児期の子どもの発達/（2）本実践の目的と講座の概要

III 総括

今回の実践の下敷きにしたのは、Geoffrey Crossick, Patrycja Kaszynska (2022)『芸術文化の価値とは何か―個人や社会にもたらす変化とその評価』である。大学と地域の行政が連携した異分野グループによるパイロット的WSがThe AHRC Cultural Value Projectの研究成果に基づく「個人の内省」、「アイデンティティ」、「主観的幸福感」などの効果を見出した。昨年度より地域の妊娠中の女性及び家族支援を行っていく実践を重ね、大学側の変革をも生み出しながら幸福をともに追求していくため、アートを取り入れた予防的学びを提供していくことに大きな意味が見出された。

2024 年度においては、新しいメンバーで新施設子育て支援室での開講を予定している。